

## 合同教育研究全道集会 ③社会科教育分科会報告

### 1 はじめに

2021年11月13日土曜日、朝9時から昼休憩をはさみ午後3時過ぎまで、報告10本、常時20名前後の参加者を得て、実践を中心においた率直で意欲的な意見交流が行われた。ウェブ会議システム ZOOM を利用し、全道の様々な場所から ZOOM 画面に集まった。事前に「配信」された資料に基づき、報告者は必要に応じて「画面共有」でレポートを提示したり、参加者は顔画面をオンにしたりオフにしたりしながら報告・交流が進められた。

### 2 参加者について

大学生をはじめ、初任者から定年退職後の再任用の教員まで、社会系教科専門を中心としつつもなかには国語専門の高校教員、ZOOM 開設担当事務局の教員（「面白そうだから」と途中から参加）、さらに大学教員に弁護士等、多彩な顔触れが集った。

### 3 報告・討議の流れ

まず初めに全員で短時間の自己紹介や地域・学校の様子紹介を行い、その後、報告・交流が進められた。全部で10本の報告が事前にエンタリーされており、地理（3本）・歴史（3本）・公民的（4本）内容の別に大きく3部に分け、1報告に10分報告・討議5分、内容別ごとに30分の部分討論の時間が設けられた。

当日のレポートと報告の順を以下に示す。

#### 開始

#### 運営からのアナウンス

#### 自己紹介（参加者全員による）

#### 第1部 地理的内容

- ①小4 自然災害にそなえるまちづくり「留萌川の水害」 高橋基文（小）
- ② 地域に根ざした防災の学習の試み（現在進行形） 飯塚正樹（高）
- ③ 地理未設置高における地理的技能の育成—地理総合開始後を見据えて— 高橋真太郎（高）
- ④「公共」や「地理総合」を見据えた教育実践～“連携型”授業を通して～ 杉山拓哉（高）

#### 第1部報告全体の討論

#### 第2部 歴史的内容

- ⑤コロナだったから、いつのまにか看板を作ってみました～ふさわしい探究課題が見つかったとき（エピソードⅡ含む） 米家直子（高）
- ⑥小6 戦争を「自分ごと」としてとらえる授業をめざして 高橋基文（小）

#### 第2部報告全体の討論

～ランチタイム～

#### 第3部 公民的内容

- ⑦地球環境問題について考える 石橋英敏（中）
- ⑧総選挙で模擬選挙 4回の取り組みで見えてきたこと 池田理（高）

⑨身近な風景に学ぶ憲法―主権者として考える力を養う 山崎辰也 (高)

⑩ジャンケン、どっち、ジャンプの政治・経済 角谷悦章 (高)

第3部報告全体の討論

全体を振り返っての討論・感想交流

閉会

(他、⑪私の『北海道学』授業プラン 松林洋 (高) \*提出のみ)

#### 4 報告・討議の様子

今回の報告は、小学校2本、中学校1本で、他はすべて高校実践の報告だった。

報告資料は前述したように、事前に合研事務局が用意したwebサイトにアップされ、それを各自がダウンロードして臨んだのだが、なかには資料の事前アップロードに間に合わず報告者のアップロード先が指定されてそこから各自ダウンロードする、などの手法も活用され、オンラインならではの「ICT活用」による報告の様子もみられた。

報告レポートの傾向として、地域の課題をどのように扱うか、高校の地歴科・公民科の新科目導入にどのように取り組むか、探究的な取り組みをどう行うか、等、報告者の問題意識がレポートから十二分にうかがうことができた。

討議全体を貫く傾向は、これらの報告レポートを通じて、子どもと教育内容をいかにつなげていくかに関心が高いことが見て取れた。発言も活発に行われた。声に出して討論するのは別に、ZOOMの「チャット」で質問や意見を述べ合う場面も多々あった。初参加の学生にとっては初めて会う人ばかりのなかではあったが、チャットでの書き込みは大学の講義でも活用しているためか発言がしやすかったようだった。若者は教師の卵でもあるが、一方で現役の学び手の一人でもある。このような立場からの率直な感想や子ども時代の振り返りなどが、教師としての参加者には参考になることが多かった。

もちろん、教師本人の学び交流する様子もそここにみられたことは言うまでもなく、なかには、地理というよりも主権者教育のつもりで取り組んでいる、など、教科・科目の意義そのものが教師によって語り直されている発言も見られた。

#### 5 オンライン運営に感謝しつつ

トータルで5時間のオンライン分科会は、当初、長いのではないかと心配したが、終わってみるとあっという間であった。初顔合わせの方も多かったが、2次元のZOOM画面で平等の大きさで映る空間は、現地開催の際には味わいにくい(?)、フラットで平等な討議空間となったことは新たな発見だった。現地開催に戻った将来、前のほうに運営・共同研究者などが集結することには違和感を覚えるに違いない。

当初、合研事務局からは午前みの時間枠をご用意いただいたが、事前にエントリーされた報告本数が10本(当日は11本)となったことを受け、事務局と協議のうえ、13日当日、参加者に午後まで延長することを図ることを前提に、ご了承いただいた。事務局の柔軟なご対応にこの場を借りて、感謝の気持ちをお伝えする。

文責：共同研究者代表 前田輪音